

～日本語における～

外国語の氾濫

高 宮 孝 治
樫 本 英 彦
伊 藤 俊 一

(共同研究)

【 1 】

ポルトガル語或いはオランダ語等の所謂、南蛮語が江戸末期に我が国に輸入され、又、英学なるものが輸入された明治初期、そういった西欧との交流がはじまって以来今日までかなりの年月を経ている。そして今日では、かくして輸入された外国語は従来の純粋の日本語と何等差違を感じることなく平気で日常生活に於て用いられていることは云うまでもない。即ち是等の外来語は外国語でありながら最早その国籍をなくし日本語に帰化してしまつたと云えよう。ガラス・コップ・ペン・その他・是等の外来語を今更のように外国語という意識をもって用いているものはないであろう。そのように多くの外国語が過去幾十年間に日本に入りこんで来たのであるが、特に終戦直後のアメリカ占領軍進駐以来その傾向が強く、今日占領軍が去っても一度用いられた外来語は永久にその姿を消さないであろう。又、人工衛星の科学が超飛躍を遂げた現今、新しい外国語が、新聞・雑誌・ラジオ等のマスコミを通して何と多く氾濫していることか。そしてそれ等の外来語が本来の正しい意味を離れ、或いは正しい発音を離れ誤り伝えられているものも如何に多いことか。一体我々日本人はその日常生活に於て、如何なる外国語をどの程度使用しているだろうか。朝起きて夜寝るまで、我々の口から発せられ、我々の耳に入りこみ、そして我々の眠にふれる外国語は如何？ その調査は決して無意義ではないであろう。然しその調査の可能性になると必ずしも簡単ではないのである。何故なれば、その人の生活環境、年令等により一律にはいかないからであり、各種の生活層、各々の年令層等を細く統計を出してその平均を求めねばならない。そこでそういった特殊のケースを離れもっと客観的に外国語の侵透状況を見る方法がないか。そこで私共はその資料を新聞に求めたのである。新聞は与論の反映であり社会生活の縮図である。我々の日常生活が文字の上に具現されたものとみて差支えなからう。そこで私共はその新聞を材料として現今の日本語の中に氾濫している外国語の状況を一瞥したい。

【 2 】

—新聞における外国語の調査—

高 宮 孝 治 ・ 伊 藤 俊 一

1. 趣 旨

(1) 外国語が如何に日本人の日常生活に入りこんでいるかを調べる。

(2) それらの外国語が如何に日本語化されたかその変移を調べる。

2. 資料 大阪朝日新聞（昭和34年1月12日より1月16日に至る一週間）

3. 方法

(1) 新聞面を便宜上次の6つに分類する。

(a) 政治 (b) 経済 (c) 社会 (但し家庭娯楽, 地方版, 学芸を含む)

(d) スポーツ (e) 番組 (放送・テレビ) (f) 広告

(2) 頻度数が目的でないから同一外国語の重複は新聞の同一面では重複をさける。

(3) 人名・国名等の個有名詞はさける。

(4) 合成語はそのまま一語とする。

(5) 取り出した外国語には綴字を添え, 特殊な語には意味をつける。

(6) 英語以外の外来語にはその国名をつける。

4. 結果の処理

新聞に於ける日本語に対する外国語の比率をみる。尚, 調査の趣旨の(2)については項をあらためて, かかげることとする。

[A] 政治

アンバランス	unbalance (不均衡)
アルファベット	alphabet (エービーシー)
アイソトープ	isotope (同位元素)
アンテナ	antenna (電波受・発の空中線)
アプレ(仏)	après-guerre (戦後派, 戦前の道徳文化に反するもの)
イマジネーション	imagination (想像)
イニシアチブ	initiative (主導的立場をとること)
インテリ(露)	intelligentzia (知識階級)
ウインド	wind
ウインドウ	window
ウイスキー	whisky
エアコンデション	air-condition (通風装置)
エプロン	apron
エデン	Eden (楽園)
オーバー	overcoat の略
オール	all
カーテン	curtain
カムバック	come-back (復帰する)
ガラス	glass
グランド・ホテル	grand-hotel
ココア	cocoa
コンビ	combination の略 (結合)
ゴールデン・アワー	golden hour
サロン	saloon (談話室)
ジャーナリスト	journalist (新聞業者)

スロージョー	slogan (主義, 主張)
スピード	speed
スポークスマン	spokesman (代弁者)
センター	centre (中央)
タックス・ペイヤ	tax payer (納税者)
チャンス	chance
チェック	check (くいとめる)
テレビ	television の略
デコレーション	decoration (装飾)
デモクラシー	democracy (民主主義)
ドル	dollar (弗)
トンネル	tunnel
ドーム	dome (丸屋根)
ナトリウム	sodium (ナトリウム元素)
ナショナル	national (国家的の)
ノート	note (帳面, 記録する)
バランス	balance
バスケット	basketball の略
ピストル	pistol
ビルディング	building
ブルドーザー	bulldozer (地ならし自動車)
ブラインド	blind (blind door 錠戸)
パイロット	pilot (水先案内者, 航空機操縦者)
ホテル	hotel
ページ	page
ホワイト・ハウス	White-House (アメリカ大統領官舎)
フェリーボート	ferryboat (渡し船)
ポスター	poster (ポスター)
マーク	mark
ミサイル	missile (自動推進誘導弾)
メッセージ	message (伝言・通告)
メンバー	member
ミーンズ・テスト	meanstest (資産調査)
リング	ring (ボクシングの競技場, 指輪)

【B】 経 済

アイディア	idea
アドミニスタード・プライス	administered price (管理価格)
インフレーション	inflation
イージー・ケア	easy care (アイロンの手間のかからない)
ウール	wool (羊毛品)
ウォッシュ・アンド・ウェア・コスト	wash-and-wear cost

エア・シューター
オートメーション
オーバーローン
オープン
オフィス
キャッチ・フレーズ
スタート
スピード
スタイル
セーター
ターレット・トラック
テレタイプ
デパート
ティーン・エージェンシー
デザイン
ディゼーラー
トーン
トップ・マネジメント
バランス
パステル・カラー
ブロック
プログラム
ビニール
ビニール・ハウス
ベテラン
マーク
モデル
ミシン
ミシン・メーカー
リフト・トラック
レンズ
レート

【C】 社 会

アベック
アイトソープ
アイアム・ソリー
アイスクリーム
アマチュア
アパート
インタビュー
ウォータ・スカイ

(仏)

air shooter (気送管)
automation (人間頭脳の自動化)
over loan (銀行の超過貸出し)
open
office
catch phrase (人心を引きつける文句)
start
speed
style
sweater

teletype (タイプライター式の電信機)
department store の事
teen-ager (10代の少年少女)
design
Diesel engine の略 ディーゼルはドイツ人技師の名
ton
top-management (重役会議)
balance
pastel colour
block (区画)
program
vinyl (合成樹脂)
vinyl-house
veteran (老巧者)
mark
model
sewing-machine の略
machine-maker
lift-truck
lens
rate (割合・歩合)

avec (相愛の男女の二人連れ)
isotope (同位元素)
I am sorry
ice cream
amateur (素人)
apartment house の略
interview (引接)
water sky (極地の氷原)

ウ エ ッ ト
 エ ン ジ ン
 エ チ ケ ッ ト
 エ ネ ル ギ ー
 オールスターキャスト
 オ ー ト バ イ
 オートメーション
 ガ ウ ン
 カ ラ ー
 カ バ ー
 ガ ス
 カ ロ リ ー
 キャデラック
 キ ロ
 グリコーゲン
 グリーン・ベルト
 ケ ー キ
 コミュニケーション
 コ ー ヒ
 コ ッ ト ン
 サ ー ク ル
 サ ー カ ス
 サラリーマン
 ジャーナリスト
 ジャーナリズム
 ジ ャ ン ル
 シ ャ ン パ ン
 シ ョ ッ ク
 ス ポ ッ ト
 スクーター
 スラッシュ・アイス
 ス ピ ー ド
 ス ク リ ュ ー
 ス ト ラ イ キ
 セ ン チ
 セ ン ス
 セ ン タ
 セ メ ン ト
 セ ッ ト
 タ ブ ー
 ダ ン ス
 ダイナマイト
 ダ ン ピ ン グ

(独)

(仏)

(仏)

wet (センチメンタルな、情にもろい)
 engine
 etiquette (礼儀, 作法)
 Energie (英) energy
 all star cast (花形俳優の総出演)
 autobicycle の略
 automatiom (既出)
 gown (長い上衣)
 colour
 cover
 gas
 calorie (カロリー)
 Cadillac
 kilo (千倍) Kilogram:kilometer の略
 glykogen (動物の生理上重要な白色無味の澱粉)
 green belt (緑地帯)
 cake
 communication (通達)
 coffee
 cotton (綿織物)
 circle
 circus
 salaried-man
 journalist
 journalism
 genre (文芸等の部門)
 champagne (三鞭酒)
 shock (衝撃)
 spot (焦点)
 scooter (スクーター)
 slash ice(?) (密群氷)
 speed (既出)
 screw (推進機)
 strike
 centi ($\frac{1}{100}$ m)
 sense (感覚)
 centre (中央)
 cement (セメント)
 set
 taboo ; tabu (禁忌)
 dance
 dynamite
 dumping (投売り)

タ　　ン　　ク
タ　ク　シ　ー
チュ　ー　ター
チュ　ー　インガム
チャ　ー　ター
チ　ー　フ・リーダ
テ　レ　ビ
テ　ー　マ
テ　キ　ス　ト
テ　ー　ブル・クロス
デ　ー　タ
テ　ー　プ
テ　ー　ブル・マナー
デ　リ　ン　ジ　ャ　ー

テ　ー　ブル・スピーチ
ト　ー　ナ　メ　ン　ト
ト　ラ　ッ　ク
ト　ラ　ホ　ー　ム
ド　ラ　イ
ナ　シ　ョ　ナ　リ　ズ　ム
ナ　イ　ロ　ン
ナ　ン　セ　ン　ス
ナ　イ　フ
ニ　ュ　ー　フ　エ　イ　ス
パ　ー　ソ　ナ　ル
バ　イ　ヤ　ー
バ　タ　ー
パ　ル　プ
パ　ネ　ル
バ　ッ　ク　ル
パ　ー　テ　ィ　ー
バ　リ　エ　ー　シ　ョ　ン
ハ　ン　ド　ル
ビ　タ　ミ　ン
ヒ　ン　ト
ピ　ー　ク
プ　ロ　グ　ラ　ム
プ　ラ　ン
フ　ラ　ッ　シュ
ブル　ジ　ョ　ア
プ　ー　ル
プ　ラ　ス　チ　ック

(独)

(仏)

tank
taxi
tutor (家庭教師)
chewinggum (チュ　ー　インガム)
charter (雇う)
chiefleader (主なる引率者：登山の時)
television
Thema (主題)
text
table cloth
data (資料)
tape
table-manner (食卓礼儀)
dellinger (太陽面の爆発により短波通信が妨害される現象)
table-speech
tournament (勝抜き試合)
truck
trachoma
dry (甘ったるくない)
nationalism
nylon
nonsense (ばかげたこと)
knife (ナイフ)
new-face
personal (個人的)
buyer
butter
pulp (製紙・原料)
panel (羽目板, 討論会)
buckle (バンドの止め金)
party
variation (変化)
handle (取扱う：とって)
vitamin
hint
peak (最高峰)
program
plan
flash (閃光・映画の瞬間の場面)
bourgeois (有産者)
pool
plastic

ベ ル ト
 ヘルス・センター
 ベ ル
 ヘリコプター
 ベース・キャプテン
 マゾヒスト
 マ イ ク
 マグネット
 ミリバー
 ミステイク
 メー ト ル
 メー カ
 モ ッ ト
 モ デ ル
 ユーモア
 ラ ジ オ
 ラ ッ セ ル
 ルー ト
 レンズ
 レクリエーション
 レギュラー
 ロケット
 ロープウェイ
 ローカル・ニュース
 ワ ク チ ン

(仏)

(独)

belt
 health-centre
 belt
 helicopter
 base-captain
 masochist (被虐性変態者)
 microphone の省略
 magnet (磁石)
 millibar (気圧指度の単位)
 mistake
 metre
 maker
 motto (標語・格言)
 model
 humour (ユーモア)
 radio
 russel snow-plough のこと
 (route (みちすじ)
 (root (起 原)
 lens
 recreation
 regular (正式の)
 rocket (ロケット放射機)
 rope-way
 local news (地方ニュース)
 Vakzin (免疫材料)

[D] スポーツ

アルバイト
 アイスホッケー
 アンパイヤー
 アウト
 オープン
 ガイド
 カード
 グラウンド
 グラブ
 キックオフ
 キャプテン
 ゲレンデ
 コーチ

(独)

(独)

Arbeit (研究, 著作, 内職)
 ice hockey
 umpire
 out
 open
 guide
 card
 ground
 glove
 kick off
 captain
 Gelinde (スキーに適した高低のある場所)
 coach (技術の指導)

コンディション	condition
ジープ	jeep
ショート	short
シーズン	season
シングルス	singles
スポーツ	sports
スケジュール	schedule (予定表)
スキ	skii
スケート	skate
ゼネラル・タイム	general-time
チーム	team
テンポ	tempo (速度・調子)
テント	tent
トーナメント	tournament (勝ち抜き試合)
トレーニング	training
トラック	truck
トップ	top
トライ	try (ゴール成る)
ハイキング	hiking
プラス	plus
フリーバッティング	free-batting
フォーメーションプレイ	formation-play
フェンシング	fencing
ヘッドコーチ	head-coach
ホール	hole (穴)
ミット	mitt
ランキング	ranking
ランナー	runner
リード	lead
リーグ	league (競技連盟)
リフト	lift
リンク	rink (スケート場)

(伊)

【E】 番組(放送・テレビ)

アナウンサー	announcer
アワー	hour
アクセサリ	accessory (付属物)
アルバム	album
インタビュー	interview
インフルエンザ	influenza
ウィークリー	weekly
エレベーター	elevator

ガ イ ド		guide
カ ク テ ル		cocktail (混合酒)
カ メ ラ マ ン		camera-man
カ ッ ト		cut
カ ロ リ ー		calorie
ク イ ズ		quiz
クッキング・スクール		cooking school
ク ラ シ ッ ク		classic
グ ル ー プ		group
ケ ー ス		case
ゲ ス ト		guest
コ ー ラ ス		chorus
コ ン ク ー ル	(仏)	concours
サ ロ ン		saloon
ジ ャ ー ナ ル		journal
シ ョ ー		show
ジ ャ ズ		jazz
シ ャ ン ソ ン	(仏)	chanson (フランスの庶民的な軽い歌)
シルエット	(仏)	silhouette (影絵)
センチメンタル		sentimental
ス コ ー プ		scope
ス タ ッ フ		staff (部員)
ス タ ー		star
ス リ ラ ー		thriller
ダイジェスト		digest (要約したもの)
ダ イ ア ル		dial
タ ン ゴ		tango (ダンス曲の一種)
タ ク シ ー		taxi
チャンピオン		champion
ティータイム		teatime
テ レ ビ		television
デ ッ キ		deck
ディレクター		director (監督)
ド ラ マ		drama
ドキュメンタリ		documentary (記録映画)
ニ ュ ー ス		news
Hammond・オルガン		hammondorgan (電気振動で音を出すオルガン)
ハ イ ラ イ ト		high-light (最も興味のある場面)
ハイティーン		high-teen
バラエティ		variety (変化, 種々の演芸を一まとめにした出しもの)
パ レ ー ド		parade (行列)
パ レ ヴ ー	(仏)	ballet
バイバイゲーム		bye-bye-game

ピ ア ノ
 フ イ ル ム
 フ ア ン
 プロボクシング
 プロデューサー
 ホームソング
 ポ ス ト
 ポピュラー
 マ イ ク
 メ ロ デ イ
 モ デ ル
 ム ー ド
 リ サ イ タ ル
 ル ー ル
 レ コ ー ド
 ワ ル ツ

piano
 film
 fan
 pro-boxing
 producer
 homesong
 post
 popular
 microphone の略
 melody
 model
 mood (気分)
 recital (独奏会)
 rule
 record
 waltz

【F】 広 告

(イ) (薬品・化粧品)

ア ル ミ
 インフルエンザ
 ウ イ ル ス
 エ ネ ル ギ
 カ プ セ ル
 クレンジング
 ク リ ー ム
 コ ロ イ ド
 シ ャ ン プ
 ス ポ ー ツ
 セットローション
 ノ イ ロ ー ゼ
 ハ イ テ ィ ン
 ヒ ス テ リ ー
 ビ タ ミ ン
 ブラッシング
 ヘヤトニック
 ホ ル モ ン
 マ ッ サ ー ジ
 ミ ク ロ ン
 ム ー ド
 メ ー カ
 リ ウ マ チ ス

aluminum
 influenza
 (独) Virus (顕微鏡にみえない微小物の病原体)
 (独) Energie
 (独) Kapsel (薬を入れるゼラチン製の小筒, そのままのむ)
 cleansing (清潔にするもの)
 cream
 colloid
 shampoo
 sport
 set-lotion
 (独) Neurose (神経症)
 high-teen
 (独) Hysterie
 vitamin
 brushing
 hair-tonic (髪が強壮剤)
 hormone
 massage
 (仏) micron
 mood (気分, 雰囲気)
 maker
 rheumatism

(四) (衣 服)

アブストラクト
ウーステッド
オ ー バ
カ シ ミ ヤ
サ テ ン
シ ャ ツ
シ ョ ー ル
ジャケツト
スカ ー ト
スタイル・ブック
スラックス
スカ ー フ
セ ー ル
デザ イン
ナイロン
モ ー ド
ネクタイ
モヘヤ
ネグリジエ
パ ッ チ
パ ジ ャ マ
バン ド
ビ ニ ー ル
プラスチック
ブラウス
ファッション
ヘ ロ ア
ボール・ペン

(ハ) (映画・演劇)

アトラクション
アルバム
オープニング・ショウ
ク イ ズ
サイン・ボール
シネマスコープ
ジャズ
スナ ッ プ
ス タ ー
ステ ー ジ
スピーカ
スポンサー
スポ ー ツ

abstract
worsted (羊毛を撚って織ったもの)
overcoat の略
cashmere (印度 kashmir 地方産山羊の織物)
satin (シュス)
shirt
shawl
jacket
skirt
style-book
slacks (スポーツ・ズボン)
scarf
sale (売出し)
design
nylon
mode (様式)
neck-tie (tie ともいう)
mohair (アンゴラ山羊の毛で織ったもの)
négligé (部屋着, 化粧着)
(足くびまであるももひき)
pajamas
band
vinyle
plastics
blouse
fashion
velours (フェルトを起毛した帽子用生地)
ball-pen

(仏)

(仏)

attraction (主な催しものに添えて行う出しもの)
album
opening-show
quiz
signed-ball, autographed-ball
cinemascope
jazz
snap (snapshot の略, 早撮写真)
star
stage
speaker (loudspeaker の略拡声器械)
sponsor (商業放送の広告主)
sport

タ ッ チ
チャネル
チャンス
テレビ・サービス
ハイファイ
パレード
プレイガイド
ファンタジア
バ ッ ト
ム ー ド
ブラウン管
ルポ (ルポルタジャー)

(仏)

ロードショウ
(食 品)

アーモンド
カクテル
コンクール
シュークリーム
ジンフーズ
ソー ス
ソーセージ
トマト・ケチャップ
ドーナツ
ハ ム
バター
パイナップル
ホームカクテル

(仏)

(仏)

(機 械 ・ 器 具)

アダプター
イヤホン
オートバイ
グラス
ステレオ
スピーカ
スタンド
センチ
システム
タイヤ
テレビ
トランジスタラジオ
トースタ
ハイファイ

(仏)

touch
channel
chance
television service
HiFi (highfidelity)
parade (行列・行進)
playguide
fantasia (幻想曲)
bat
mood (気分)
Braun (真空管の一種, テレビに用う)
reportage の略
road-show (一般封切前に独占して行う特別興行)

almond (巴旦杏)
cocktail (混成酒)
concours (競演会)
(chou à la crème の略)

gin-fizz

sauce

sausage

tomato-ketchup

doughnut

ham

butter

pine-apple

home-cocktail (家でつくるカクテル)

adapter (加減装置・受接管)

ear-phone

autobicycle

glass

stereophonic の略 (立体音響効果をもつもの)

speaker (loud speaker の略)

stand (売店)

centimètre

system

tire

television

transistor (ゲルマニウムの性質を利用した検波器)

toaster (電気パン焼器)

HiFi (high fidelity の略, 実際の音にきわめて近い音を出すこと)

パ イ プ
パラ シ ョ ッ ク
フ ロ ン テ ィ ー ア
ミ キ サ ー
リ モ コ ン

pipe
parashock (刺戟に対して器械を保護する装置)
frontier (開拓地の最前線; 開拓者)
mixer
remote-control の略 (遠隔操作装置)

【 3 】

新聞一面の、文字の数は概算13,050である。一日の新聞の頁数を6頁とすると一日分の新聞全面の字数は78,300である。そこで、今、先にあげた外国語のすべての字数を合計すると約1,800字数である。故に新聞に於ける外国語数と全語数との比率は

$$\frac{1,800}{78,300 \times 5} = \frac{1,800}{391,500} = \frac{2}{435} \text{ となる。}$$

即ち新聞に於ては、435字中2字の割合で外国語が入っていることになる。パーセンテージでは0.46%である。従って我々の日常使用する言葉の中には1,000字中4字ないし5字の割で英語が入るといふことになるわけである。

【 4 】

一日本語に用いられる印欧語系の

外国語・特に英語からの外来語について一

樫 本 英 彦

いずれの国語も、その語いの中に何パーセントかの外来語を含んでいるのが普通であつて、日本語もその例にもれない。英語のように、殆ど混合語かと思われる程、多くの外来語を含んでいるものもあれば、比較的純粋な言語もありいろいろであるが、日本語は古来多くの漢語を取り入れて来て居り、むしろ外来語に対しては寛大な言語だと言う事ができよう。

明治以前においては、外来の要素は主として各世代にわたる中国語であつたが、明治以降においては、おびただしい数の和製漢語に加うるに、ヨーロッパの諸言語からの借用がもっともおびただしい数にのぼつた。そのうちで、もっとも数の多く、又もっとも一般的なのは英語からの借用であつたが、それに次ぐものとして、フランス語、ドイツ語、イタリア語などがそれぞれ特殊の分野において取り入れられて来ている。もちろん明治以前においても、ポルトガル語、スペイン語、オランダ語からの借用があつて、その中には一見本来の日本語かとまちがえられるようなものもある。ポルトガル語からは、ボタン、メリヤス、ジュバン、カップ、パン、カルタ、タバコ、コンペーター、トタン等があり、国の名前のイギリス、エジプト、イタリアなどもポルトガル、又はスペイン語を通じて入つたものと言われる。又オランダ語からは、ガラス、ブリキ、ペンキ、コルク、ランプ、レットル、コンパス、カンテラ、ビール、コーヒー、ホック、ゴム、コップ、スコップ、ズック等がある。これ等の中には一見英語からの借用と思われやすいものもあるが、これは英

語とオランダ語がきわめて類似した言語であるため、英語からの借用か、オランダ語からの借用かと言う事は、もっぱら歴史的に説明されなければならない。すなわち、徳川時代にオランダとの関係を通じて借用された物は、たとえ英語にそれと等しい語があってもオランダ語からの借用と見るべきは当然である。

以上の外に、日本語とインド・ヨーロッパ語族との関係を古代にさかのぼるならば、仏教の渡来とともに移入された古代インド語の単語をあげなければならない。これ等は現代においては、殆ど外来語として意識される事がないか、或は、これらが漢字のあて字を以て書かれて来た結果、漢語であるかのように受け取られている場合も多い。盂蘭盆(ウラボン)は古代インド語の *ullambana* すなわち「大なる苦しみ」の意の語であるにもかかわらず、食物ののせる盆と関係があるかのように受け取られる場合がその一例である。オジョー(和尚)、エンマ、ガラン、ネハン、ラカン、ポタイ、ソトバ等は古代インド語から仏教を通じて輸入された語であり、その他にも宗教と関係なく、カワラ(瓦)、ダンナ(旦那)、ハチ(鉢)、サラ(皿)、アバタ(痘痕)、シャバ(娑婆)等、殆ど外来語の意識のないものも多い。又仏前にそなえる水をアカと称するが、これも古代インド語の水の意味であって、これがラテン語の水の意味の語 *aqua* と同語であり、現代英語の *aqueduct*, *aquatic* などの語と関係のあるのは興味のある事実である。

以上、明治以前に入ったインド・ヨーロッパ語系の外来語について述べたが、この中英語教育において特に注意すべき点は何であろうか。第一にそれらの語と英語との相違をはっきり意識しなければならない。一般にローマ字で書かれた文をすべて「英語」と称し、又カタカナで書かれた語をすべて英語からの輸入と考え、「英語」と呼ぶ傾向があるが、例えば、或るパン屋の看板に *pan, cake* と書かれてあるのは、この間違があらわれたものだと考えてよい。先にも述べたように、*pan* はポルトガル語からの外来語であり、又ポルトガル語では *pan* とは綴らないから、むしろ日本語であると言ってよい。これを英語の *cake* とならべたのは、カタカナ書きの外来語をすべて「英語」と考える間違であってこのような例は生半可な英語の流行する現代の世相を反映して、いたる所に見られる。

又オランダ語に関しては、元来英語又はドイツ語から入ったと思われるものが案外オランダ語からの輸入である場合がある点に注意せねばならない。英語、オランダ語、ドイツ語はそれぞれ似かよっている場合が多く、又オランダ語から入った語が、英語として受け取られ、その後英語の発音や、意味の影響を受けて変化したものもある。コーヒー、ガラス、ポンプ、ドック、レンズ、デッキ、ランプ、ビール、コップ等はオランダ語からの輸入であるが、一般には英語から入ったものと考えられている。この中コップは特に注意を要する。英語の *cup* は我々のコーヒー茶わんの事であって、日本語のコップは英語の *tumbler* 又は *glass* (ガラスのコップ) をあらわしている。したがって英文の中に *cup* という語があった場合、これをコップと訳するのは間違であって、必ずコーヒー或は紅茶茶わんと訳すべきである。しかし現代において英語の *cup* をカップ、*glass* をグラスと称する人のあるのは、この間の関係に気付かず、意識的に混同をさけようとしているものと見てよい。

一体外来語と一口に言っても、国語になりきったものと、外国語として意識されるものとの両極があって、その間の段階をはっきりもうける事は困難である。現代の日本人にとって「皿」や「かわら」を外来語と感ずる事は困難である。又戦時中外来語を排斥した軍

隊ではジュハン（ジュバン）という語が何等の疑問なしに用いられていた。バケツ、シャツ、タオル、は殆ど國語になり切ってはいるが、尋ねられれば、誰でもこれは英語から来ていると言うであろう。一方ミサイル、オートメーション、コンヴァーティビリティは誰にとっても外國語と感ぜられるのである。

上の例でもオートメーションが「オートメ」と省略されれば、日本語化への第一歩をふみ出したと考えてよいが、このような変化が意識的に無意識的に、又誤謬等によって、どのように行われて来たかを特に英語からの借用語について考えて見よう。

(1) 語の短縮

typewriter → タイプ
automation → オートメ
television → テレビ
apartment house → アパート
department store → デパート
notebook → ノート

短縮の結果これ等の語は全然英語としては通用しないものになっている。オートメ、テレビという英語はなく、television は普通TVと短縮して用いられる。notebook は book と省略されるのが普通で note と言えば「覚え書き」「手形」「注」等の意味である。depart は「出発する」の意の動詞、apart は「別れて」の意の副詞である。又 type は活字の意味である。

(2) 発音のはなはだしい変化、又は語尾、変化語尾の脱落

beefsteak → ビフテキ
second-hand → セコハン
bucket → バケツ
handkerchief → ハンカチ
jug → ジョッキ
cement → セメン

等変化のいちぢるしいものの例にあげられるが、d の発音が日本語のラ行音に変化しているものも多い。

yard → ヤール
pudding → プリン
board → ボール紙

又condensed milk, engagement-ring, corned-beef, curried rice,(又はcurry and rice), flying pan, home-sickness, happy ending, ham and eggs 等では語の末尾又は変化語尾等が落ちてそれぞれコンデンスミルク、エンゲージリング、コーンビーフ、カレーライス、フライパンは、ホームシック、ハッピーエンド、ハムエッグとなり curried rice がライスカレーと用いられればもはや英語の範囲を越えたものと言えよう。又 slippers, pajamas, talkies 等必ず複数で用いられる語が日本語ではスリッパ、パジャマ、トーキという風に単数に用いられ一方1フィートというように単数のフットを用いるべき所に複数形を誤用している場所もある。

(3) 品詞と意味の無視

個々の例について考えて見よう。

- a) ポスト—いわゆるポストの意味には英語では postbox, letter box 或は mailbox が用いられる。post は「柱」「郵便」「ポストに入れる」の意味である。
- b) パイプ—紙巻タバコ即ちシガレットをはさむものは英語で cigarette holder で pipe は日本でいうマドロスパイプの形式のものである。一方マドロスパイプは日本式英語と考えるとよい。
- c) シャツ— shirt はワイシャツの事で下着には undershirt 又は vest が用いられる。
- d) ワイシャツ— white shirt (白無地のワイシャツ) がいつの間にか色物に対しても用いられピンクのワイシャツ等という用法が生れた。
- e) ボス— boss は決して悪い意味には用いられず、日本語の親方、頭(かしら)等の意味であるが、日本語では腹ぐるい有力者を表現する言葉になっている。
- f) サイダー— cider はりんご酒の意味であるが日本語では soda water, mineral water を意味している。従って或る業者はリンゴ酒にフランス語の発音のシードルをあて混同をふせいでいる。
- g) トランク— trunk は大型の荷物入れでちょっと手軽に持ち運び出来ないようなものである。日本語のトランク即ち旅行かばんは suit-case である。
- h) トランプ— trump は切り札の意味。card が日本語のトランプに相当するものを表す。
- i) スペル— spelling が正しく spell は「綴る」の意味の動詞である。
- j) サーブ—相手に球を送るのは名詞で service でその動詞が serve であるが、日本語ではその品詞が無視されている。
- k) タイプ— typewriter をタイプと省略する事が多いが、type は名詞では「活字」動詞では「タイプライターで打つ」の意で、品詞が間違えられている。
- l) オーバーする—越える事をオーバーすると言う事があるが over には動詞の用法はなく、「……を越えて」の意味の副詞、前置詞の用法があるだけである。
- m) オーバー—寒い時着用するのは overcoat, 略すれば coat と言うべきである。
- n) ジャケット—やや古い用法であるが、毛の下着をこう呼ぶ事がある。この語のもとの英語 jacket はせびろの上着の事である。
- o) チョッキ—チョコッキのもとの英語をさがすのは困難である。一説に jack のなまったものと言われるが、jack とは昔の若い兵士の事で(トランプのジャックと関係がある)それがチョコッキの様なものを着ていたために英語の waistcoat 又は vest を表わすのにチョコッキという語が用いられるようになった。
- p) ミルク—英文中に milk という語が出ると生徒は必ずミルクと訳する。しかし日本のミルクは粉乳又は練乳のように加工された牛乳即ち英語の powdered milk, condensed milk をさしている。一方英語の milk は牛乳であって、「牛乳」と「milk」が全く別のものをさすと考えるのは間違である。
- q) サイン— sign は動詞で名詞は signature である。「サインをいただきたい。」は間違った用法である。もっとも「記号」の意味では sign でよい。
- r) ビフテキ— beefsteak. 牛肉の焼いたものだが、時たま「くじらのビフテキ」等と用いられる事がある。

s) モーニングー morning coat の意味に省略して用いられる。

t) ボーイー 「女ボーイ」は大変な誤用である。

u) ホームー platform の意味に。home とは関係はない。

(4) 和製英語

テーブルスピーチ, ゴールデンウィーク, スプリングコート, オールドミス, サラリーマン, ライスカレー, ケミカルシューズ, カフスポタン, オールバック, ダブルカラー, ラストヘビー, ハーフコート, ミルクホール等は和製英語で, 本来の英語では, 他の語を用いる。テーブルスピーチは table talk, カフスポタンは cuff-links であり, ケミカルシューズなどは plastic shoes とでも言うべきであろう。或る時水泳の放送で頭を水につけたまま泳ぐ事をノンブレッシングと言っていたが breath と breathe の品詞と発音の違いを知る者には奇妙な, 日本式英語としか受け取られない。現代の英語の氾濫から察して日本式英語が多く製造されている事は間違いない, 英語の学習者はそれを正しい英語と区別する事に敏感でなくてはならない。

もちろん英語の誤用と, 和製英語の間に, はっきりした境界線を引く事は不可能で, tunnel が球をつかみそこねるの意味に, compass が歩幅の意味に用いられるのは, そのどちらの場合であるとも言いかねるのである。

(5) 英語, 米語からの輸入

英語はアメリカとイギリスで語の意味, 発音の異なる場合の多いのは周知の事実であるがそのどちらから日本語に輸入されたかは, 歴史的, 文化的背景によって左右されると見てよい。

(イ) イギリス語から

ポケット, ビスケット, スープ, ホリデイ, ダイナモ, ストッキング, ボット等はイギリス語の発音用法にもとづいている。

(ロ) アメリカ語から

カラー, カクテル, クラッカー (ビスケットの事で日本語でいうクラッカーは soda cracker), サッカー, カレッジ, エレベーター, ラジオ, ターミナル, キャンデー, ナンセンス, スケジュール等はアメリカ語の発音又は用語にもとづいている。イギリス語のビスケットとアメリカ語のクラッカーは同一のものであるが日本語ではクラッカーは soda craker を意味しビスケットと別のものを意味している。又カクテルに対し一方ではイギリス音のcocktailと言う風にややニュアンスの違いをもって用いられる場合もある。

以上種々な点から外来語について考察したが, 以上はそのごく一部であり, 又分類法も種々これ以外に考えられるであろう。しかし現代の日本語に用いられる外来語は非常におびただしく, 又それだけに以上のべたような誤用も多い事に注意しなければならない。しかし, 誤用を頭から非難するのは間違で, どんな国語も外来語を受け入れればその困独自の発音と語義を得るのである。

要は英語学習者, 又教育者が正しい英語といわゆる「英語」とを区別し, 和訳, 英作文等において不勉強による, 又無意識の誤をしないよう注意すべきである。英語の Christmas は2音綴, 日本語のクリスマスは5音綴に変化している。そして, それ等の語の表わす意味も全然と言ってよい程異ったものを持っているのである。